

都市計画道路 田辺旭ヶ丘線

事業再評価

柏原市 都市デザイン部 都市政策課

令和4年10月27日

— 目 次 —

1. 位置図	1
2. 事業概要	2
3. 事業の必要性等に関する視点	
(1) 事業の進捗状況	4
(2) 事業を巡る社会経済情勢の変化	5
(3) 費用便益分析等の効率性	10
(4) 安全、安心、活力快適性等の有効性	12
4. 事業の進捗の見込みの視点	17
5. 対応方針（原案）	19

1. 位置図



1

2. 事業概要

■事業目的

本事業は、近鉄大阪線により分断されている東西を連携する新たな交通ネットワークの充実、国道25号へ国道165号、府道12号が接続する近鉄河内国分駅前の慢性的な交通渋滞の緩和、交通の円滑化、さらに災害発生時の輸送・避難の多重化を目的とする。

また、柏原市交通バリアフリー基本構想の重点整備地区に位置づけられているとともに、国道25号と国道165号の区間は、通学路に指定されており、歩行空間における安全性の確保を目的とする。

■起終点

柏原市田辺1丁目～柏原市旭ヶ丘3丁目

■全体延長

465m（うち高架部290m）

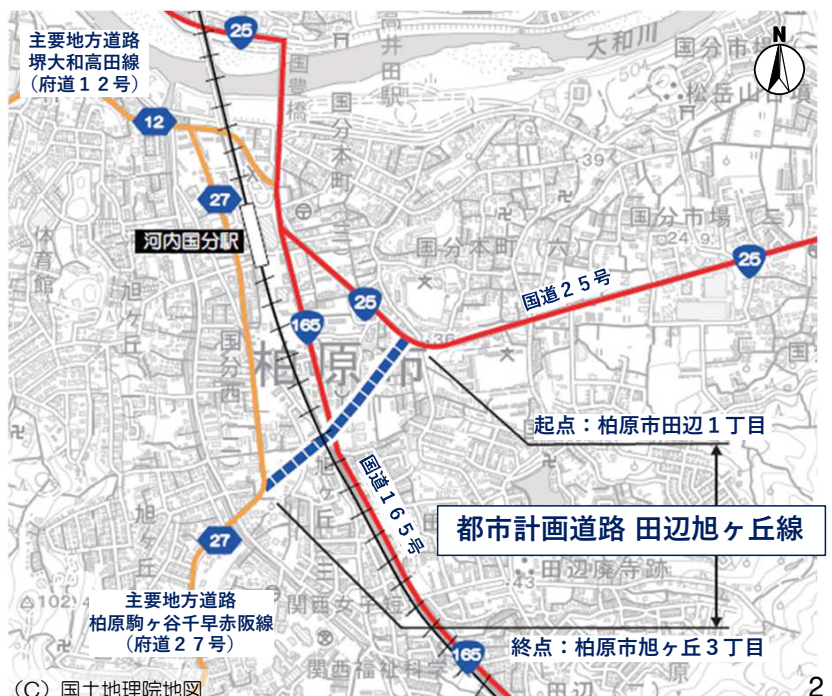
■幅員 16～22m

■総事業費

約37.3億円	設計費他	約 4.3億円
	用地補償費	約19.6億円
	工事費	約13.4億円

■事業着手

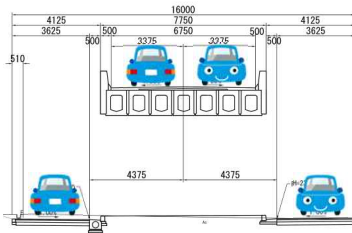
平成7年度



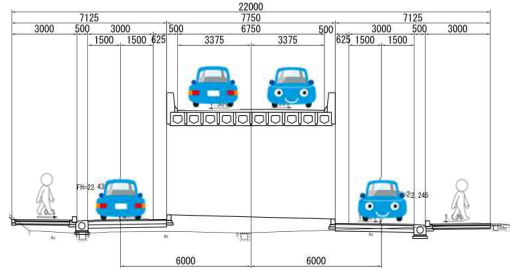
2

2. 事業概要（標準横断図）

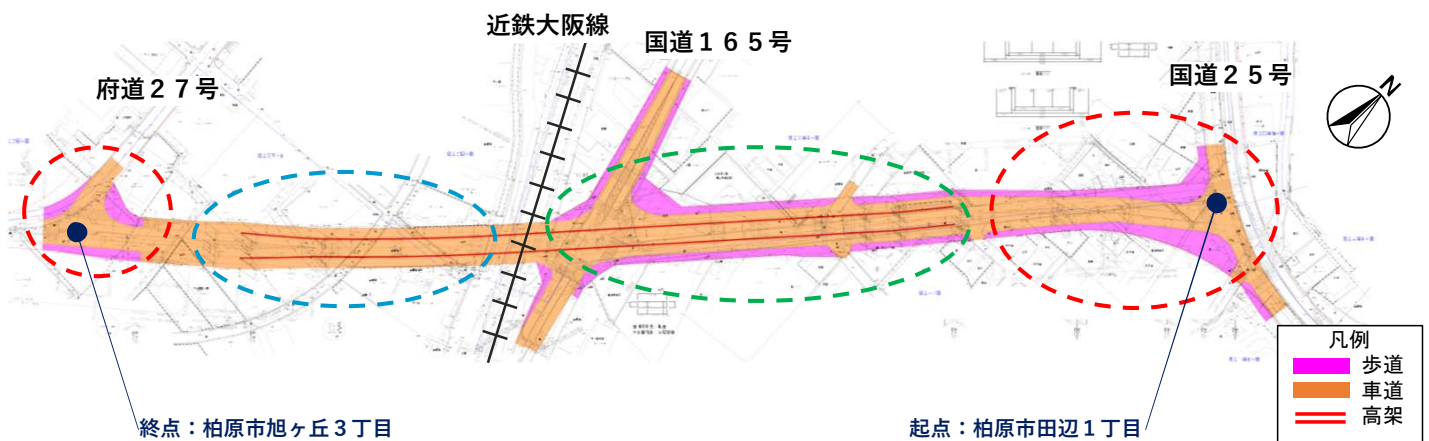
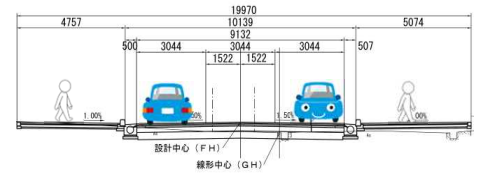
近鉄大阪線より府道27号まで



国道25号より近鉄大阪線まで



国道25号及び府道27号接続部（交差点周辺）



3

3. (1) 事業の進捗状況

令和4年3月31日時点

全体進捗率 55%

約20.5億円／約37.3億円

■道路用地取得面積

6,094㎡／6,094㎡

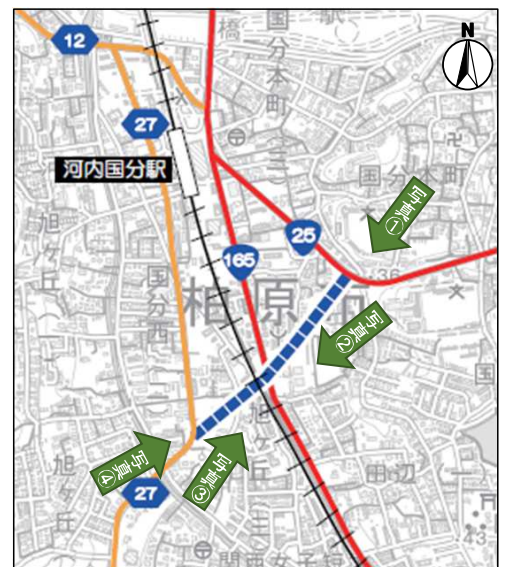
進捗率 100%

※土地開発公社保有含む

■工事進捗

約0.2億円／約13.4億円

進捗率 1%



4

3. (2) 事業を巡る社会経済情勢の変化

■市の上位計画での道路整備の推進

●柏原市第5次総合計画(R3.6)

2030年 まちの将来像の実現に向けて、次の5つの目標を掲げて政策を推進する。

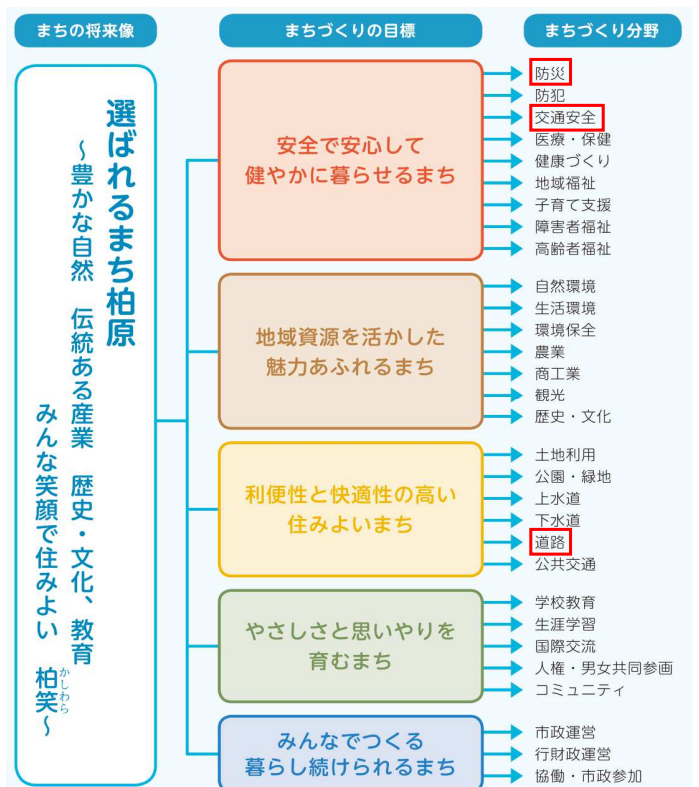
まちづくり施策体系における主要な取り組みとして都市計画道路田辺旭ヶ丘線がある。

防災 災害に強く防災体制が充実したまち
緊急交通路の整備を推進

交通安全 交通事故のないまち
通学路の整備を推進

道路 快適で利便性の高い道路が整備されたまち
幹線道路ネットワークの整備を推進

◆まちづくり施策体系



出典：柏原市 第5次総合計画

5

3. (2) 事業を巡る社会経済情勢の変化

■市の上位計画での道路整備の推進

●第2期柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略(R3.3)

・国の総合戦略やこれまでの取り組みの趣旨を踏まえ本市の最上位計画である柏原市総合計画の将来像に向けて、人口減少の克服と地方創生の視点から取り組むリーディングプロジェクト。

◆都市計画道路の整備を行い、慢性化している交通渋滞の緩和による交通の円滑化を図る。

●柏原市強靱化地域計画(R2.12)

・大規模自然災害発生直後から救助・救急、医療活動等が迅速に行なわれる。
・大規模自然災害発生後であっても、生活・経済活動に必要な最低限度の電気、ガス、上下水道、燃料、交通ネットワークを確保する。

◆緊急輸送等の道路網形成を行い、避難路、輸送路等の整備の推進を図る。

●柏原市都市計画マスタープラン(R4.3)

・国分地域の将来像 産業の活性化を目指したまちづくり
工業団地が集積し、田辺旭ヶ丘線整備により、産業の更なる発展を推進させる。

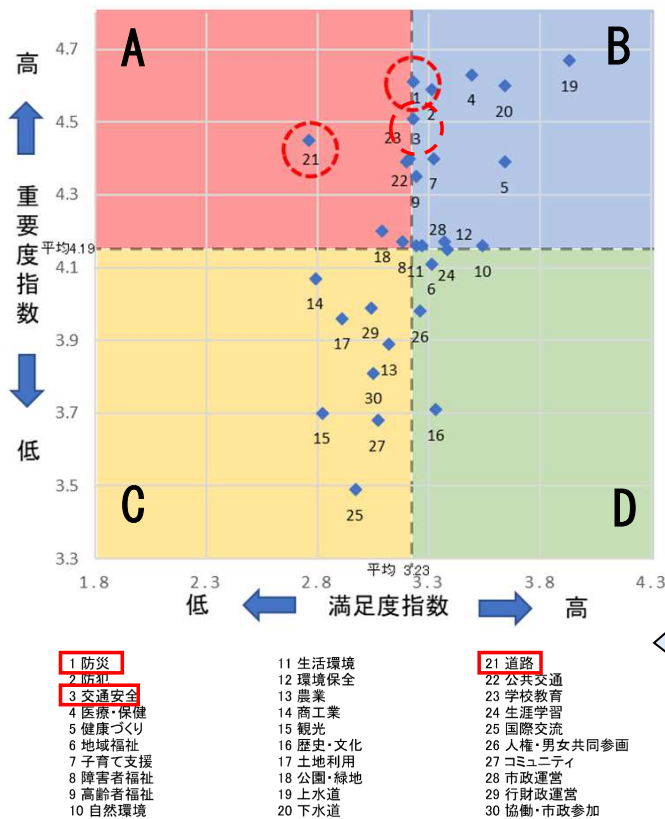
◆鉄道により東西地域が分断されているため、東西を結ぶ路線の整備を推進する。

6

3. (2) 事業を巡る社会経済情勢の変化

■市民のニーズが高い道路

30項目の満足度と重要度



- A. 早急な改善が求められている
- B. 高いニーズを満たしている
- C. 今後改善する必要がある
- D. 現在の状況で満足している。

→ アンケートより、
道 路：早急な改善が求められている
防 災：市民の求めるニーズが高い
交通安全：市民の求めるニーズが高い

第5次柏原市総合計画で
 達成目標と主要取組が示されている。

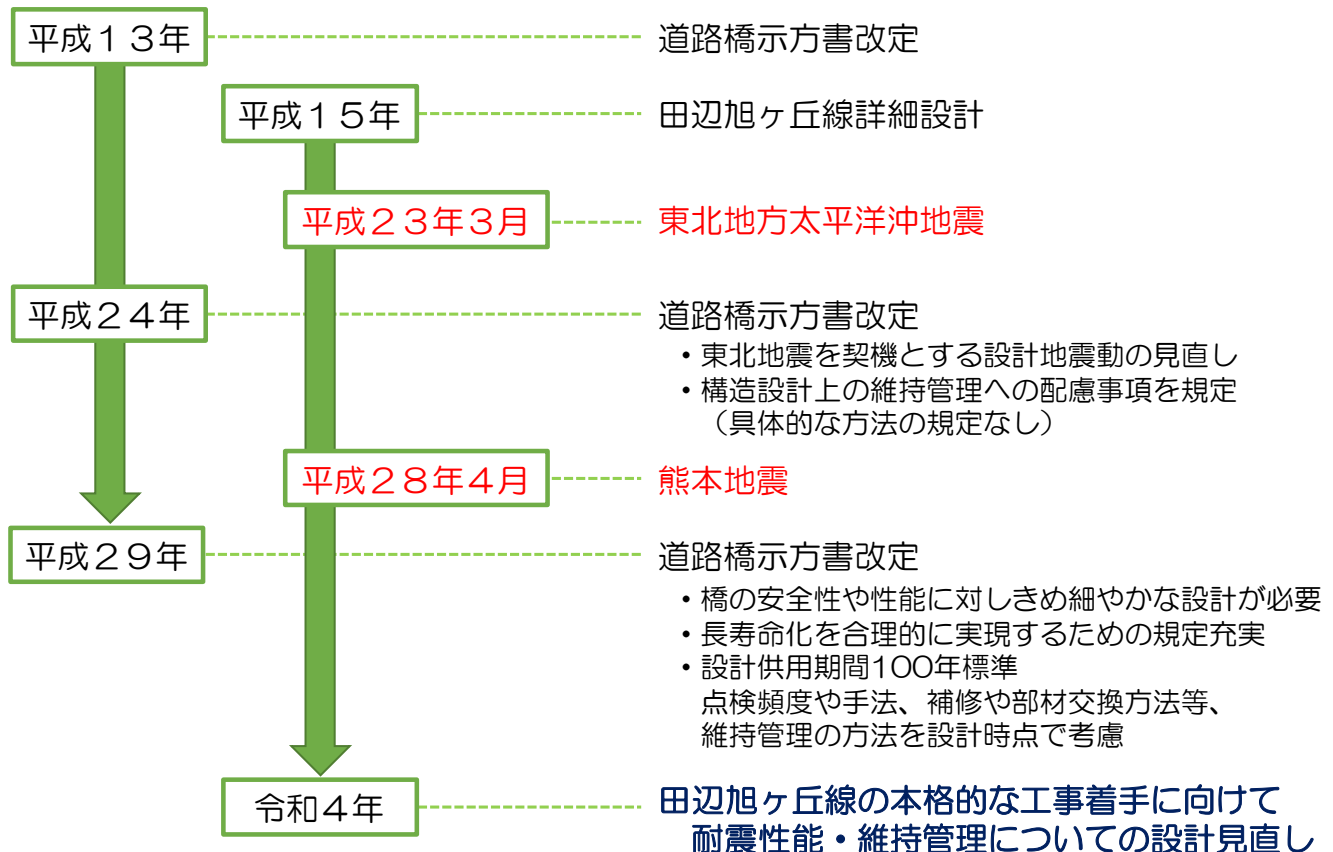
1. 防災
 - ・緊急交通路の整備として（都）田辺旭ヶ丘線 等
3. 交通安全
 - ・交通事故のないまちの形成に向けた通学路の整備推進
21. 道路
 - ・快適で便利・安全性の高い道路整備に向けて、（都）田辺旭ヶ丘線とその他3路線の事業の推進。
 - ・道路施設等のパトロールの強化や、道路美化活動 等

出典：柏原市市民意識調査集計結果（R4.2）

7

3. (2) 事業を巡る社会経済情勢の変化

■基準書の改定（耐震性能・維持管理）



8

3. (2) 事業を巡る社会経済情勢の変化

■維持管理等の変化

■「定期点検要領」の策定について

道路構造物を効率的に維持管理していくため、
道路法施行規則の一部を改正
(平成26年7月1日施行)

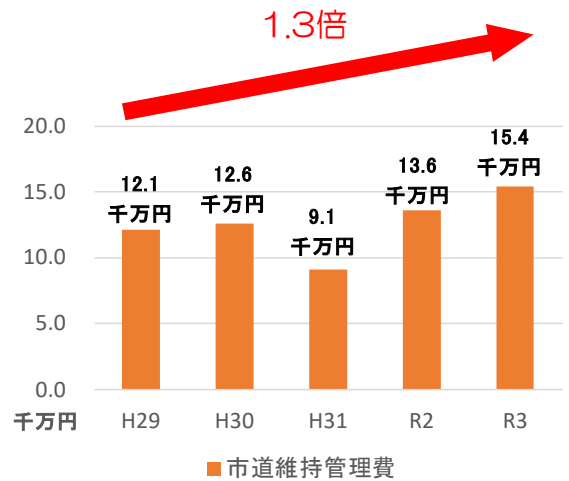
定期点検要領

- ・点検は、近接目視により5年に1回の頻度
- ・健全性を、4段階に区分

柏原市道路橋定期点検

- ・平成29年度 124橋
- ・平成30年度 長の塚橋(JR委託)

■柏原市維持管理費の推移



3. (3) 費用便益分析等の効率性

■費用便益比(B/C)とは

〈便益〉を〈費用〉で割ったものであり、値が大きいほど投資効果大きい。

費用：道路整備に要する事業費＋維持管理に要する費用(C：コスト)

便益：整備効果を貨幣価値に換算したもの(B：ベネフィット)

走行時間短縮便益＋走行経費減少便益＋交通事故減少便益

■走行時間短縮便益とは

道路整備に伴い自動車交通が円滑化し、**走行時間が短縮**されることにより、
道路利用者の得られる利益を貨幣換算したもの。

■走行経費減少便益とは

道路整備に伴い自動車交通が円滑化し、**燃費が向上**するなど**走行経費が節約**されることにより、道路利用者の得られる利益を貨幣換算したもの。

■交通事故減少便益とは

道路整備に伴い自動車交通の分散化が図られ、
交通事故による社会的損失の減少を貨幣換算したもの。

3. (3) 費用便益分析等の効率性

■費用便益比 (B/C)

項目	前回	今回
走行時間短縮便益	67.1億円	98.5億円
走行経費減少便益	17.9億円	9.6億円
交通事故減少便益	4.5億円	1.3億円
総便益 (B)	89.5億円	109.4億円
総費用 (C)	41.8億円	54.5億円
B / C	2.14	2.01

■費用便益比算出条件

- ✓使用マニュアル : 費用便益分析マニュアル (国土交通省令和4年2月)
- ✓基準年度 : 令和4年度
- ✓検討期間 : 50年間
- ✓社会的割引率 : 4%
- ✓交通量推計時点 : 平成22年度交通センサス
- ✓交通流の推計手法 : 均衡配分

11

3. (4) 安全、安心、活力快適性等の有効性

■救急活動の向上

【現状の問題】

- ・当該地区を管轄する消防署に聞き取りを行ったところ、外傷及び心疾患などの患者の場合、城山病院へ救急搬送している。
- ・搬送路の国道25号は交通渋滞が慢性化し、**救急搬送時間**が長時間となることがある。

【整備目的】

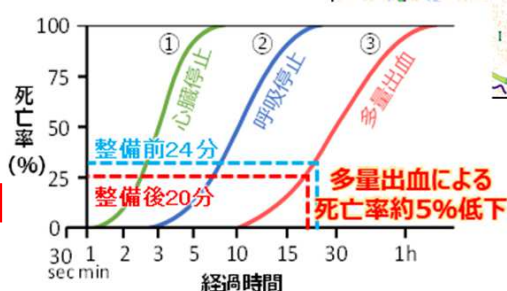
- ・当該道路を整備することにより、救急搬送時間が4分程度短縮でき、**死亡率が5%低下**し、救命率の向上が図られる。



○柏原市周辺の救急医療機関別診療科目 (抜粋)

優先度	医療機関名	診療科目							
		固定・通年制							
一次	市立柏原病院	○							
二次	医真会八尾総合病院	○							
	城山病院	○	○		○	○	○	○	○
三次	田辺脳神経外科病院							○	
	高村病院	○			○				
	藤本病院	○			○				○

○カーラーの救命曲線



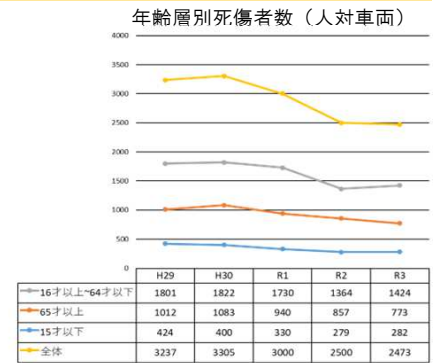
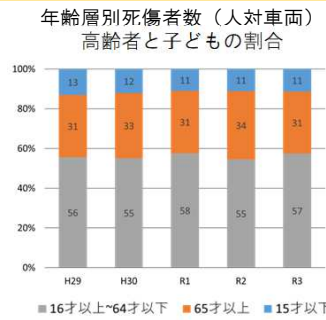
出典：大阪府における保健医療体制 (H29.12.16時点)

※所要時間はH27道路交通センサスの混雑時旅行速度より算出

12

3.（４） 安全、安心、活力快適性等の有効性

■安全・安心な歩行空間確保



出典：大阪府警

【現状の問題点】

- ・高齢者及び子どもの交通事故は、年々減少傾向であるが、**未だに発生**している。
- ・通学路に指定された周辺の生活道路に通過交通が流入し、**安全な通学路が確保できていない**。

【事業目的】

- ・高齢者及び子供の交通事故減少に向けた**安全な歩行空間を確保した道路整備**。
- ・バリアフリー化やカラー化により通行帯区分等を考慮した道路整備。
- ・当該道路整備による幹線道路の渋滞緩和により、**周辺通学路の安全性の向上**を図る。

13

3.（４） 安全、安心、活力快適性等の有効性

■災害発生時の輸送・避難の多重化



【現状の問題点】

- ・一次緊急輸送路に国道25号が、二次緊急輸送路に国道165号が指定されているが、広域緊急輸送路へ繋がる**補完路**が限られている。
- ・当該地区には、幹線道路が近鉄大阪線と立体交差する「**国分地下道**」と、市道が立体交差する「**大阪教育大学前駅アンダーパス**」の2箇所のみであり、その距離は約3.2キロ離れている。
- ・両道路とも水害発生時には、**冠水**の可能性があるとともに、**桁下が4.5m以下**である。

【事業目的】

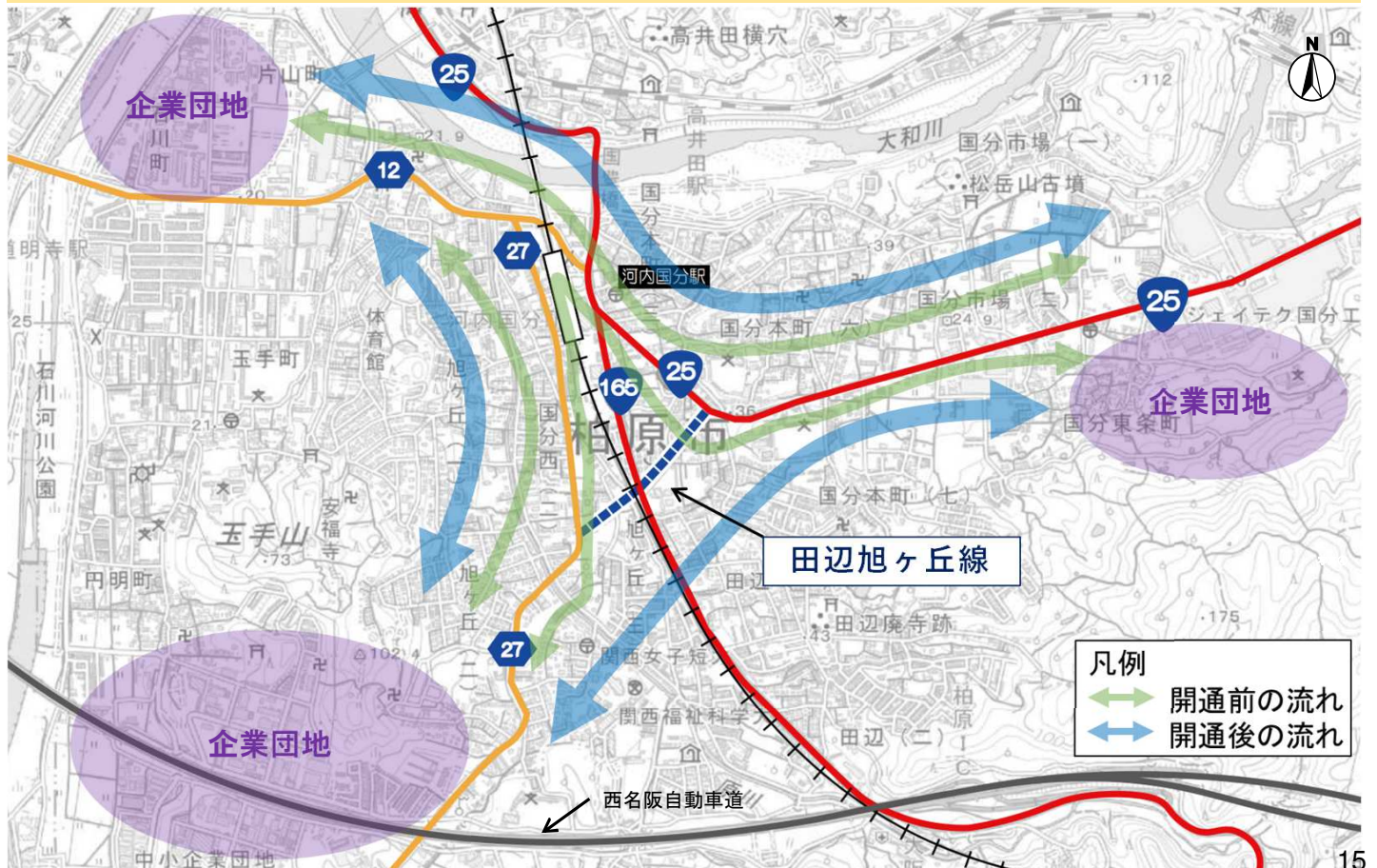
- ・災害時に安定して走行可能な輸送路及び避難路確保のために**多重化**を図る。



14

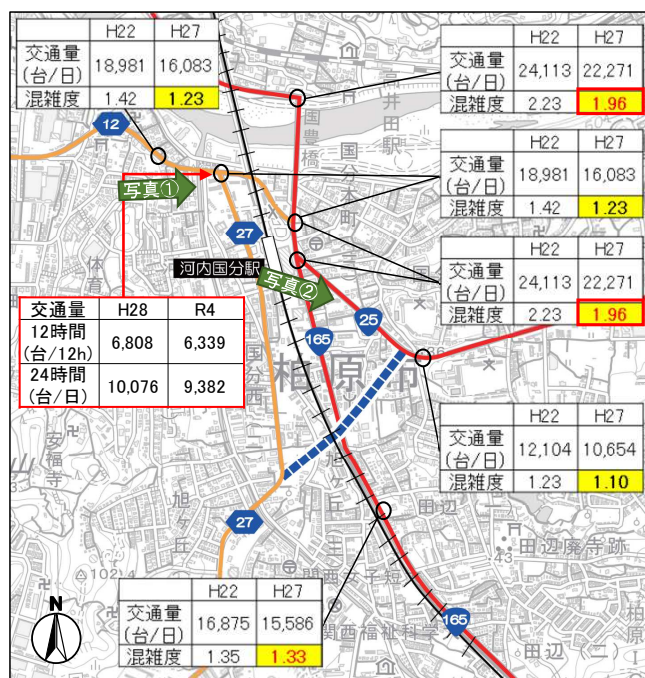
3. (4) 安全、安心、活力快適性等の有効性

■物流の効率化に寄与・地域間交流連携の強化



3. (4) 安全、安心、活力快適性等の有効性

■慢性的な交通混雑・渋滞の緩和



出典：平成22・27年度 全国道路・街路交通情勢調査
令和4年7月13日 交通量調査結果

混雑度 1.00～1.25：昼間 12 時間のうち混雑する可能性のある時間帯が 1～2 時間（ピーク時間）ある。

混雑度 1.25～1.75：ピーク時間はもとより、ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性の高い状態。

混雑度 1.75 以上：慢性的混雑状態。

【現状の問題点】

- ・H27センサデータを基に考察すると、河内国分駅周辺の幹線道路は、混雑度が1.0を越えており、特に国道25号の国分交差点以南の混雑度は1.96と高くなっている。
- ・各道路においてH22センサデータとH27センサデータで混雑度の比較したところ、減少しているものの、依然として1.0を越える高い数値で推移している。

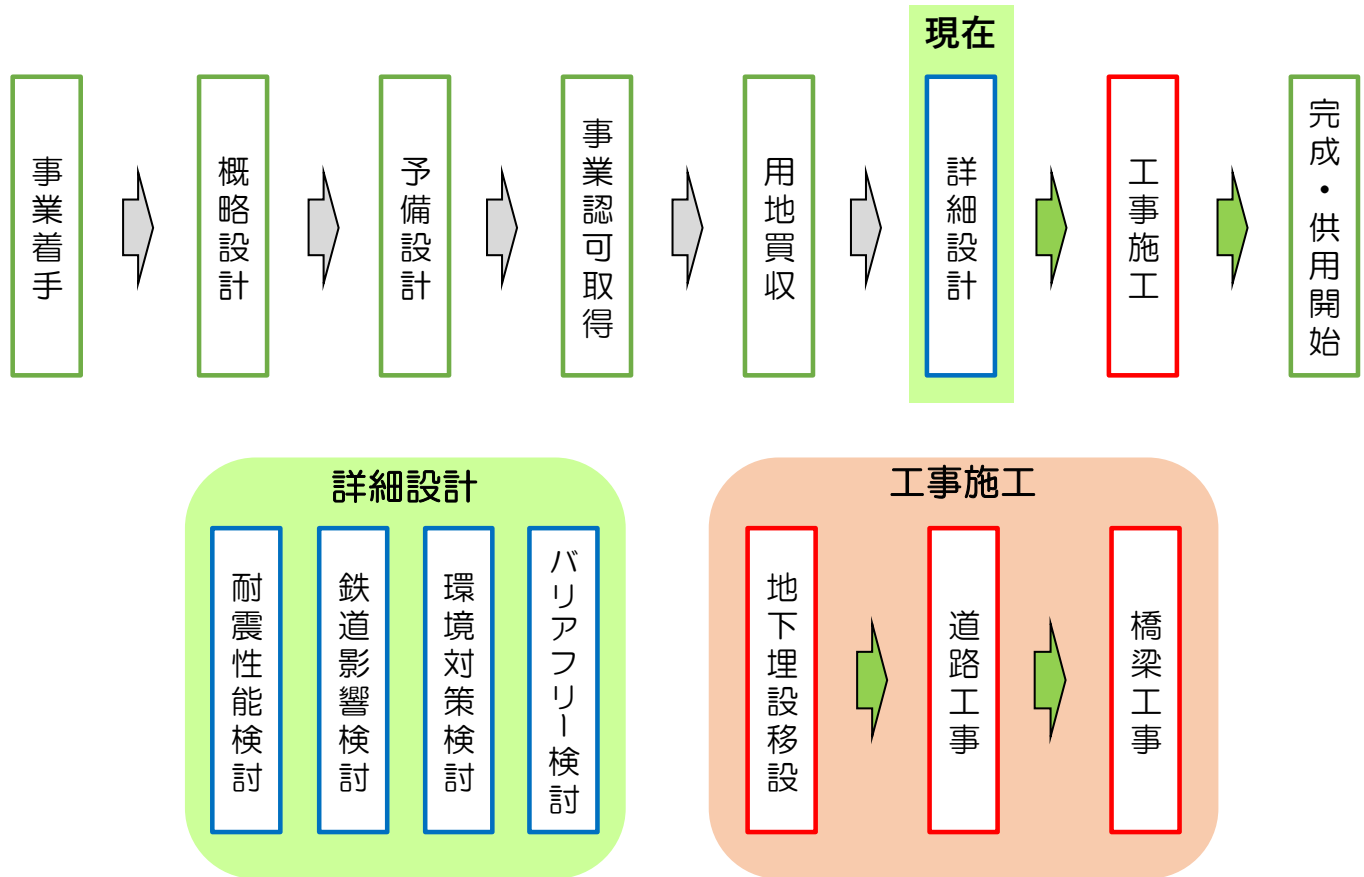
【事業目的】

- ・新たな道路ネットワーク整備により、交通混雑を緩和し、交通流動の円滑化を図る。



4. 事業の進捗の見込みの視点

■事業の流れ



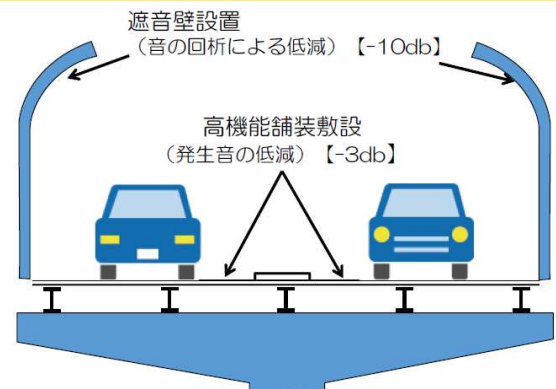
17

4. 事業の進捗の見込みの視点

■周辺環境への配慮

【道路騒音への配慮】

橋梁部など高架部分については、遮音壁の設置及び走行騒音の低下が期待できる高機能舗装の導入等、対象道路沿線の住環境保全に向けた騒音低減方法の検討を実施。



■住民参画による環境活動推進

【道路景観・環境への配慮】

道路沿い植栽やの花壇の管理手入れを住民と協働で行う仕組みづくりなどの検討を実施。

堂島北橋で緑化運動 ～柏原市アドプト・ロード・プログラム～

市が管理する道路の一定区間において、地元自治会や企業等の団体が、独自に清掃や緑化等のボランティア活動を行うことを支援する「柏原市アドプト・ロード・プログラム」を行っています。このたび岡村製油株式会社が活動されている河原町4番地先の一部区間が「柏原市アドプト・ロード堂島・河原コットンロード」として認定され、歩道の清掃活動や緑地帯の緑化活動を行っていただいています。

☆活動いただいておりますのは、堂島北橋を起点に長瀬川沿い北へ約150mと東へ約200mの区間です。



▲堂島北橋で作業される岡村製油株式会社の皆さん

出典：柏原市 広報

18

5. 対応方針（原案）

○現在の事業状況は、

用地買収が完了し、最新基準に基づいた設計の見直しを実施している。

B/Cが2.01と依然として高い。

○市民のニーズにおいて、道路の早急な改善が求められている。

○事業の完成は、

救急活動の向上、安心・安全な歩行空間確保、災害発生時の輸送・避難の多重化
物流の効率化に寄与、地域間交流連携の強化、慢性的な交通混雑・渋滞の緩和
により、柏原市の発展に大きく寄与する。



＝事業継続＝